

授業改善のポイント

(その2)

～授業を英語で行うことを基本とする～

グローバル化に向けた英語教育の改善・充実方策について、国から示された「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」や「グローバル化に対応した英語教育改革五つの提言」の中で、中学校でも授業を英語で行うことを基本とすることが掲げられています。2020年（次の学習指導要領）から完全実施される計画です。高等学校の学習指導要領には、既に下記のとおり「授業を英語で行う」ことについて明記されています。



第3款 英語に関する各科目に共通する内容等

- 4 英語に関する各科目については、その特質にかんがみ、生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるよう十分配慮するものとする。

授業を英語で行う目的は？

生徒が英語に触れる機会の充実 → 英語でコミュニケーションを行う機会の充実

生徒が英語のまま理解したり表現したりすることに慣れる指導の充実

英語による言語活動中心の授業実施

教師が英語を使用する

生徒が英語を使用する

※ 一部の学校で行われている、文法・訳読中心の授業、高校入試等の対策を中心とした授業から、「生徒が英語に触れ、英語を使用しながら、思考・判断・表現力を高めるための言語活動を中心とした授業」へ転換することがねらいです。

CAN-DO リスト
導入のねらいと
方向性は同じ



「文法は日本語で説明しないと不安になる」「それでなくても英語が苦手な生徒に英語だけで理解させられない」等という不安の声を耳にします。これは、「授業を英語で行うこと = 従来の日本語での説明の部分を英語に置き換える」と誤解をしているのかもしれません。
授業の質的転換が大きなねらいであると考えてください。



英語による言語活動中心の授業を展開すれば、

- ・オーラルインストラクション→インタラクション
- ・活動の説明 • 言語活動の指示や手本提示
- ・生徒への励まし • Q & A等の活動 • 指示

等 英語の使用場面は自然と増える。

文法指導についても、本HPで示したとおり言語活動と一体化して行なうことが求められています。↓を参考にしてください。

<http://www.aizu-eo.fks.ed.jp/111101sidou/gaikokugo/130529.pdf>

授業を英語で行う時の留意点は？

1 語句・表現選択、速度などに気を付け、生徒の理解可能な英語を使用する。

教師の自己満足の英語では×！

2 生徒の理解を促す工夫をする。

- ・実物、絵、図等を効果的に使用する。
- ・生徒がわからないようであれば別な表現で言い換える。

3 英語による言語活動が中心の授業になっていれば、必要に応じて、日本語を交えることも考えられます。

また、教師が英語を使うことのよさとして、次のことも考えられます。

- 英語学習の雰囲気を作ることができる。
- 授業がテンポよく進む。
- 教師の英語がモデルとなり、生徒の英語使用の意欲が高まる。

難しいことを簡単に言い換えて表現したり、ジェスチャーや図等を使いわかりやすく伝えようとする姿を見せたりすることで、英語使用の意欲向上や表現の定着だけでなく、方略的言語能力育成の基盤づくりにもつながります。

※方略的言語能力 (Strategic competence) : コミュニケーションの目的達成のための対処能力

英語で授業を行う目的やよさを確認し、授業での英語使用に努めましょう。